

インド大使一家

日光の景観を満喫

インド駐日大使、バドルッ・デイン・タイヤブジ夫妻が令嬢を贈られて大よろこびの夫妻は「日光に来た目的は特別にない令息とともに六月二十九日、日光を公式訪問されました。同氏は近く駐日大使を退任、帰国されるため、家族とともに今までおとずれなかった日光を見物されたものです。」

このあと篠崎日光市教育長の案内で社寺を見学しましたが、和の代と滝ヶ原を結ぶ和の代滝ヶ原林道があります。この林道の路面や側溝を毎年整備している道路愛護会が二つありますが、そのうちのひとつ、滝ヶ原林道愛護会についてご紹介してみよう。

この愛護会は昭和三十九年に発足され、会員は滝ヶ原自治会全員の二十九人、佐藤英七さんが会長で毎年春と秋の二回、無料奉仕で林道の整備を行なっています。ことしで四年目になります。毎回、会員が総出で出役べんとう持参の林道整備を行なっています。

仏教国の大使らしく興味深げに細かく質問しながら見学されました。午後は華嚴の滝、中禅寺湖、金精峠や菖蒲ヶ浜の水産研究所をおとすれましたが、人工美と自然美のマツチした日光の景観を心ゆくまで満喫され、午後四時すぎ車で帰京されました。

グループ紹介 ④

『滝ヶ原林道愛護会』

奉仕日には、それぞれトウグワスコップ、一輪車などを持ち寄り、路面をけずったり、側溝をなおし、朝早くから日が暮れるまで汗を流しますが、市や森林組合もこれに協力、トラックなどを出動させています。道路がよくなれば交通量も増してくるのは当然のことですが小米川と日光の中心部を直接に結ぶ重要な産業道路であるだけに、今後ますます交通量が増してくるものと思います。その意味からも、この愛護会の働きは無視できない大きな力となっているものです。

昭和三十八年度には、栃木県林道コンクールで優秀賞を受けており、その後、これらの愛護会が林道の維持管理を受けつぎ現在に至っていますが、いちだんと整備され、県下一の林道とまでいわれています。春、秋の

昭和三十八年度には、栃木県林道コンクールで優秀賞を受けており、その後、これらの愛護会が林道の維持管理を受けつぎ現在に至っていますが、いちだんと整備され、県下一の林道とまでいわれています。春、秋の

昨年九月二十四日、台風二六号によって流失した安良沢小通学橋の復旧工事が近く始まり、流した橋は国道の安良沢橋と平行して下流にかけてあったもので、おもに和の代方面から安良沢小に通学する児童が利用していた通学橋です。新しくつくる橋は単桁橋のコンクリート橋で、幅一・二メートル、長さ二六メートルのりっぱな橋です。約三〇〇万円の工費で八月末までに完成させる予定です。

安良沢小通学橋を再建 災害復旧工事



【林道を補修する滝ヶ原林道愛護会の人たち＝5月15日】